

CITATION: Elias S, Al-Khayatt A, Porter RWJ, Briggs P. Dental extractions prior to radiotherapy to the jaws for reducing post-radiotherapy dental complications *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 2. Art. No.: CD008857. DOI: 10.1002/14651858.CD008857.pub2.
CRG名: Oral Health.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 22 November 2012
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 2; Update

アブストラクト

背景: 頭頸部癌の放射線治療をうけると、損なわれた環境において歯科的なリハビリテーションが必要となる。これは術後患者および歯科医療従事者双方にとって管理が極めて難しいこととなる。

目的: 頭頸部への放射線治療をうけることで開口量が減少してしまった場合を考慮し、術中に歯を保存したままにした場合と患者および歯科医がアクセスしにくい歯を術前に抜歯した場合の効果を評価する。

検索戦略: Cochrane Oral Health Group Trials Register (2012年11月22日まで)、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (Cochrane Library 2012, Issue 11)、OVIDによるMEDLINE (1946年から2012年11月22日)、OVIDによるEMBASE (1980年から2012年11月22日)、PubMed によるCANCERLIT (1950年から2012年11月22日)、EBSCO によるCINAHL (1980年から2012年11月22日)、関連する論文の文献リストを検索した。現在進行中の研究に関する情報を得るため、内容を確認するために、Cochrane Oral Health Group のウェブサイト (<http://ohg.cochrane.org>) および Cochrane Oral Health Group OHG のツイッター (<https://twitter.com/Cochrane>) に告知した。

選択基準: 頭頸部に対する放射線治療前に抜歯した場合と歯を残して放射線治療を行なった場合を比較したランダム化比較試験。

データ収集と分析: 検索結果を3人のレビュアーが個別に評価した。

主な結果: ランダム化比較試験は見当たらなかった。

レビュアーの結論: 頭頸部に対する放射線治療前に抜歯した場合と歯を残して放射線治療を行なった場合を比較したランダム化比較試験は存在しなかった。

平易な要約(Plain language summary)

このレビューは顎(あご)の骨に対する放射線治療を行う前に、放射線治療の前に抜歯を行う場合と歯を残した場合のどちらが放射線治療後の歯科的合併症が防止できるかを検討しました。その結果、コンピューターを用いた検索ならびに手作業による検索により357 文献をリストアップし、吟味しましたが、選択基準にあったものは見当たりませんでした。この複雑な問題に対する有用なエビデンスは今のところありません。

(翻訳 蓮池 聡・監訳 湯浅秀道;JCOHR)

翻訳公開日:2014年 6月 3日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。